



# 子育て応援住宅建設の優先度は

村形 昌一 議員

## 他の施策と比べても高い

町長

### 子育て応援住宅

民間活力を導入し整備してはどうか。町長 人口減少に歯止めがかからない現状において、子育て世代が必要とする住宅の整備は最優先課題のひとつだ。

職人の町の技術継承からも町内の大工さんに立派な建物を作ってもらったらどうか。町長 そういった観点も考えていく。



子育て支援住宅(大蔵村)

### 山交バスの運行補助

これまでの経緯は。町長 赤字路線のため、国県の補助が打ち切られ廃止したいとのことだったが三市一町で話し合い、自治体が運行を補助し存続していくことになった。当町は238万円補助だが全体の負担割合は。町長 路線の距離により、大石田町の割合は28%。1日15人乗れば国県の補助金が出る。利便性を高め乗車率向上できないか。町長 現状が5人程度なので厳しい。



なぐなぐ困るや〜(本町バス停)

透明な入札制度を8年前に入札制度改革に取り組んだにもかかわらず、また不正が起きたが。町長 今回の件は、一言で言えばモラルの欠如以外の何ものでもない。職員には研修を通してモラルの向上に努めてもらいたい。町長も副町長と互いに責任感をもって不正のない入札になるよう監視し合うべきではないか。町長 これまでの経緯を

踏まえ考えていきたい。条件付き一般競争入札と町内業者育成の両立は。町長 公正な入札で町内業者の育成ができればとっている。入札監視委員会をどう評価し、今後も続けるのか。町長 不正を見破る組織ではない。公正の確保のため機能している。各界からいろんな意見を聞き、不正が起こり難いやり方がないか検討していく。襟を正して業務を行っていただきたい。



# 更なる負担軽減を

遠藤 宏司 議員

## 子育て・福祉では軽減できた

町長

### 少子化対策を強化

国民健康保険税の子どもの均等割は、人数分だけ2倍3倍と負担が重くなる仕組みだ。子どもの均等割を廃止することは考えられないか。町長 国保税施行令の規定により均等割りは廃止できない。

小中学校の給食費を尾花沢市では半額補助している。子どもの人数分だけ負担になる給食費を無料にできないか。町長 町と保護者の負担は従来どおりと考えている。現状では時期尚早との考えである。

### 汚職事件の対応

前副町長の汚職事件などが頻発した。町民から信頼される町政を取り戻すための対策は。町長 これまでどおり少しずつ実直に町政を行っていくしかない。私の政治信条とする「町民目線の町づくり」を基本に、職員一丸となって日々の業務に邁進することが信頼回復の道と考える。

前副町長が制度化した「入札監視委員会」の廃止を含め入札制度を抜本的に見直すべき。



いつもの大石田町の冬(2017年1月・南通り)

### 少雪対策について

町長 「入札監視委員会」の設置により、職員の入札事務執行にかかる知識や姿勢が向上したと評価している。現段階での廃止は考えていない。百年に一度とも言える雪の少ない冬になり、除排雪業者に具体的支援が必要だが、対策は。町長 除雪オペレータの育成、確保のためにも除雪待機料を支払う。